

結核の健診 を受ける方へ



結核とはどのような病気なのでしょうか。

結核とは、結核菌が体の中に入ることによって起こる病気です。結核患者さんがせきやくしゃみをするすると飛沫（しぶき）と一緒に周囲に結核菌が飛散します。それを周囲の人が吸い込むことにより感染します。

発病するとはじめは、せき、たん、発熱等の症状が出ますが、風邪の症状に似ているため、発見が遅れることがあります。2週間以上せきが続いたら、病院、診療所等の医療機関を受診しましょう。結核は発病すると治療に時間がかかる病気ですが、「治らない怖い病気」ではありません。病気の時はお気も弱くなりがちですから、周りの人は患者さんをぜひ支えてください。



■ 目次

1	結核は「過去の病気」ではありません。……………	3
2	結核に感染することと発病することは違います。……………	4
3	接触者健診はなぜ必要なのでしょう。……………	5
4	接触者健診で行われる検査とは？……………	6
5	潜在性結核感染症とは？……………	7
6	胸部エックス線検査とは？……………	8
7	結核を治すために。……………	9
8	患者さんを暖かく迎えてください。……………	10
9	保健所の役割……………	11
10	健診の記録……………	12
	保健所一覧……………	13
	健診カード……………	14
	メモ……………	16

1

結核は「過去の病気」 ではありません。

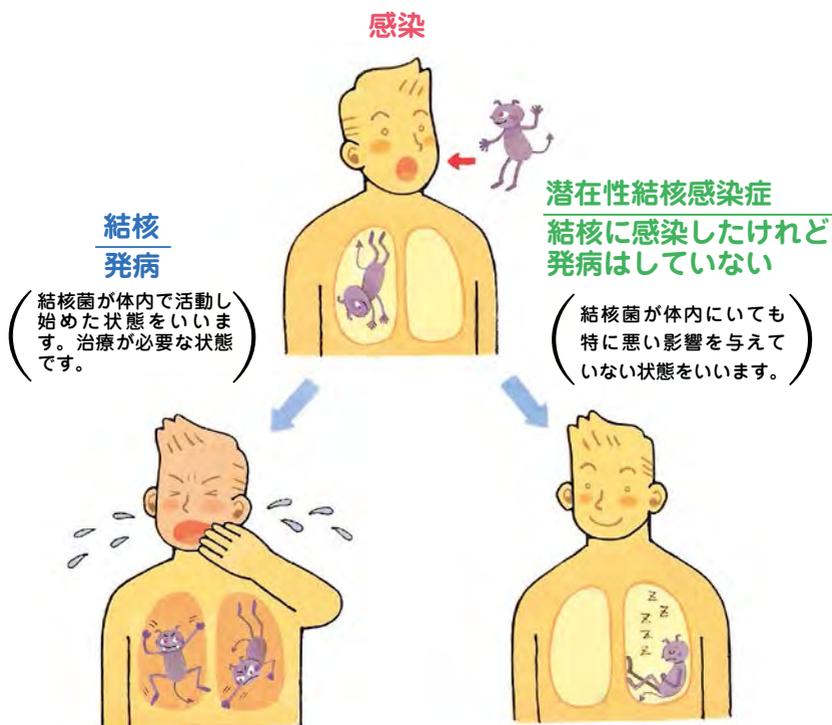
現在でも、毎年全国で約1万8千人、東京都でも約2,300人の方が新たに結核を発病しています。特に最近は高齢者の患者さんの割合が年々高まっていますが、東京都では、20歳代及び30歳代の若い世代の患者さんの割合が他県に比べて高く、若い人にとっても注意が必要です。



2

結核に感染することと 発病することは違います。

多くの場合は、結核菌が体の中に入っても、体の持つ抵抗力により追い出されてしまいます。しかし、結核菌が追い出されず、体内に入り込むと、この状態を「感染」といいます。やがて結核菌が体で活動し始めると、病巣ができ、せき、たん、発熱等の症状が現れます。ただし、感染した人が全員発病するわけではありません。一般的には感染した10人のうち、結核を発病するのは1人か2人といわれています。



3

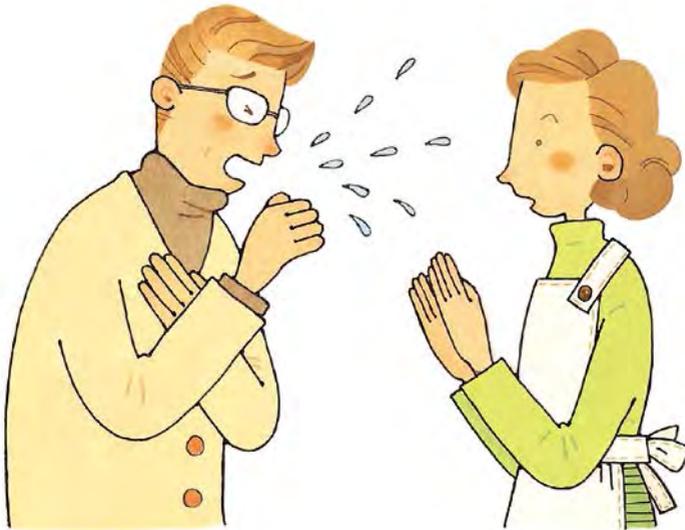
接触者健診はなぜ必要なのでしょう。

結核を発病している人や感染している人を早期に発見するため患者さんの家族や身近な人を対象に、接触者健診を行います。

患者さんのたんに含まれている結核菌が多いほど、また近くで話すなど接触の程度が密接なほど、結核に感染する機会は多くなります。

保健所では患者さんのたんに含まれている結核菌の量、周りの人の年齢、接触の状況等によって接触者健診の内容を計画して実施します。

内容としては、「IGRA 検査（QFT、T-SPOT 検査）」「胸部エックス線検査」「ツベルクリン反応検査」などを行います。



4

接触者健診で行われる検査とは？

接触者健診では、患者さんの病状、健診を受ける方の年齢や健康状態と、各検査の特性を考えて、検査内容や時期を検討し、実施します。

1) I G R A検査

採血をして、その血液から結核の感染を調べる検査です。
免疫が低下していると結果がはっきり出ないことがあります。
感染後、約8週間は検査結果が陽性とならない期間があります。

2) ツベルクリン反応検査

ツベルクリン液を注射し、48時間後に発赤の大きさを測ります。
結核の感染を調べる検査です。
原則として6歳未満の未就学児に行います。
BCG接種をしていると反応が大きくなることもあります。
感染後、約8週間は検査しても感染が検査結果にでない期間があります。
BCG接種をしておらず結核を発病すると重症化のおそれのある乳児等は、この検査が陰性でも、潜在性結核感染症の治療（次ページ参照）を開始することがあります。

3) 胸部エックス線検査

胸のエックス線写真をとり、結核を発病していないか調べる検査です。
I G R A検査を行わない方は、はじめからこの検査を行います。

5

潜在性結核感染症とは？

結核菌に感染していますが、結核の症状はなく、今後、発病するおそれがある状態です。発病を抑えるために、原則としてイソニアジド（INH）を最低6か月間服用します。

この内服についても医療費公費負担の対象になります。

服薬中、特別な生活の制限はありません。

しかし、結核は過労や強いストレスを感じる生活が続いたり、糖尿病などがあり、免疫力が低下している時に発病しやすくなります。

また、発病を抑えるための内服も、不規則になったり中断してしまうと、発病を抑えられなかったり、薬が効かない菌（薬剤耐性菌）を作ってしまう。

感染した結核菌が耐性菌である場合は、必要に応じて服薬内容も変更されます。薬は最後まで欠かさずに飲みましょう。



6

胸部エックス線検査とは？

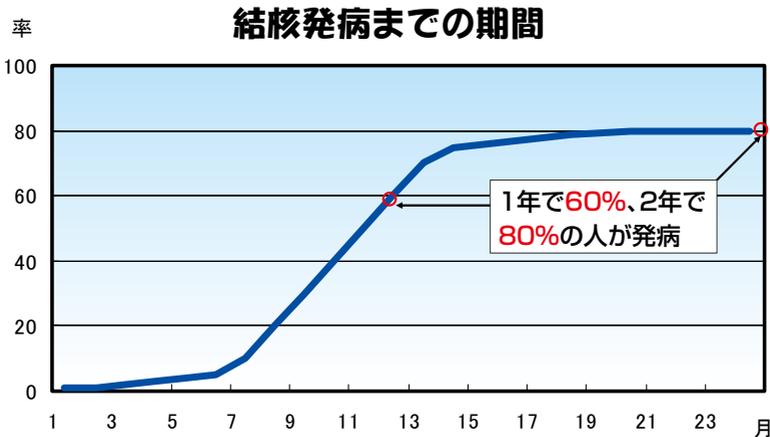
結核を発病しているかどうかを調べる検査です。発病している場合、病変が肺の中にどのくらい広がっているかなど、肺の状態を見ることができます。

結核に感染した場合、感染後6か月から2年の間が発病しやすいと言われています。

その期間、必要により胸部エックス線検査のスケジュールを保健所が計画します。

計画された健診は毎回必ず受けましょう。受けられなかった時や転勤等で職場、学校又は居住地が変わるときには、担当保健所まで連絡してください。

また、せき、たん、発熱などの自覚症状が2週間以上続くときは、健診を待たずに医療機関を受診してください。



結核に感染して発病する場合、感染後6か月から1年の間に発病することが最も多く、約8割は2年以内に発病します。

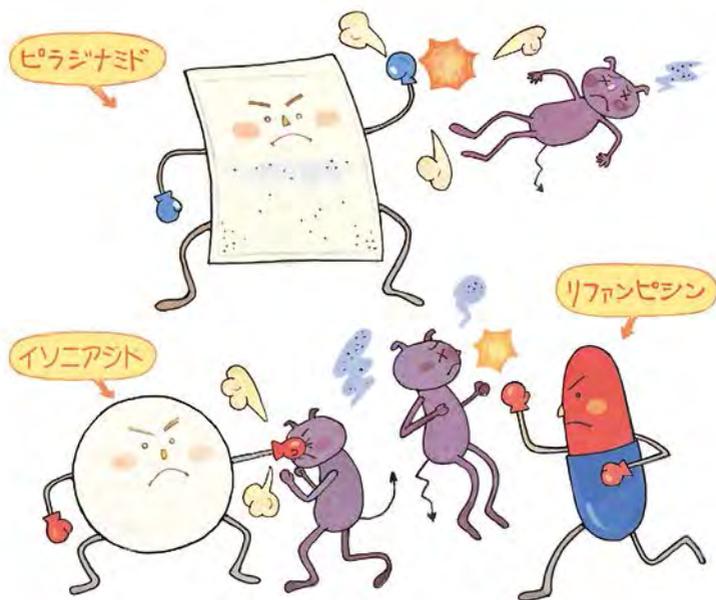
7

結核を治すために。

結核を治すためには、状況に合わせて複数の薬を組み合わせ治療します。6か月以上の必要な期間、規則正しく服薬することが大切です。

治療開始後、2週間～1か月服薬を続けると、ほとんどの方の症状は改善され、人に感染させるおそれも少なくなります。ここで服薬を中断したり、不規則な服薬をすると、症状が悪化したり、薬に対する耐性ができて、薬が効かなくなったりします。

重症の場合、1年以上の服薬治療や手術が必要となることもあります。長期間、薬を忘れずに飲み続けることは誰にとっても難しいことです。保健所では確実な服薬のための支援も行っていますので、ぜひ、一緒に治療の完了を目指しましょう。



8

患者さんを暖かく迎えてください。

潜在性結核感染症のように結核に感染していても発病していない人から、ほかの人に結核が感染することはありません。

発病した人も、薬を確実に飲んでいれば、感染性は2週間程度で少なくなります。

患者さんが学校や職場に戻ってきた時は、他の人に結核が感染する心配はありません。

患者さんを暖かく迎えてください。

多くの人が結核やエイズ、ハンセン病等の病気による社会の偏見に悩んでいます。病気によって、その人の尊厳は変わるものではありません。安心して治療ができるよう支えていきましょう。



9

保健所の役割

保健所では、住民の皆さんの健康で生き生きとした生活を支援しています。結核の患者さんの治療を確実に終了するために、服薬のお手伝い、療養相談、治療終了後の健診、患者さんの家族や周囲の方々の健診等を行っています。

※また、結核の治療に対しては医療費の一部を公費で負担する制度があり、その申請窓口は保健所です。

何か心配なことがありましたら、ぜひご相談ください。

DOTSとは・・・

DOTSとは、WHOが打ち出した結核対策戦略で、

- 1) 政府のリーダーシップ、
- 2) 菌検査による診断・経過観察の推進、
- 3) 直接服薬確認、
- 4) 薬の安定供給、
- 5) 菌検査結果の記録監視が主な5つの要素となっています。

日本においても、平成17年度より、この戦略が法律に盛り込まれ、特に、服薬を継続するための支援として、病院や保健所などで直接服薬確認が行われるようになりました。